

# JAAC だより

## 価値ある大学生活とは？

### — 名ばかりの大学生になるなかれ —

JAAC 日米学術センター  
代表 高瀬 永俊

新年明けましておめでとうございます。JAACの学生、保護者の皆様、関係者の皆様、いよいよ新たな年の幕開けです。この新年を久しぶりに日本で過ごした学生もいらっしゃることでしょう。また、アメリカ・カナダで新年を迎えられた学生もいらっしゃると思います。皆様にとって輝かしい新年を迎えられたことと思います。

昨今、日本を取り巻く状況（政治・外交政策・経済・文化継承などなど）に大きな変化が現れてきています。日本は資源のない国として知られています。人材の成長（教育分野の発展）こそ唯一の資源であったにも関わらず、その勢いも年々減速しています。

『最近の若い社員は使えない』、『最近の大学生はひどい』、こんなふうに漠然とであれ、若者気質の急速な変化を感じている人は多いのではないのでしょうか。「ゆとり教育」批判はすでに定番化され、「ゆとり世代」という呼び名は広く使われるようになってきています（平成23年4月からの新入社員がゆとり教育世代の新1年生であることは皆さんも周知のことと思います）。これらを裏付ける様に私立大学では実質無試験というところが増え、地方の国立大学でも入学に要する学力が近年、極めて低くなっています。ここに危機感を感じる人は多いと思います。学歴が人生を幸福に導くか否かは別として、勉強をしないことが半ば公認されている様な状況は漠然とはありますが、社会全体に不安な雰囲気を広げてきています。そして、この空気に抵抗するかの様に「ゆとり教育」政策は否定され、学力保持の政策が進められる様になりました。まるで政策によって、教育はめまぐるしくその実態と結果を導き出すのだと思わざるを得ません。

こんな話があります。ある国立大学の学生の話ですが、歴史の講義で教授が黒板に『10C（世紀）』と書いたところ、『「C」って何ですか・・・？』という質問が出たそうです。また、ある地方の短期大学では新入生に、設問に対して『イエス（Yes）・ノー（No）』で答えていく簡単な心理テストをしたところ、始まるや学生達から質問の声が上がったそうです。『どちらかというと思っただけである』、『すぐにまごまごします』、『初対面の人と話するのは骨が折れるものです』、といった設問文に対して、『これ何て読むんですか？』、『まごまごって何？』、『話をするのと骨が折れるのと何の関係があるの？』と、設問文の意味すら理解できない学生達によってテストどころではなかったと言うことです。“日本人としての共通の教養、知識、見識といったものもなくなっている” — その様に嘆く大学関係者は意外と多いのです。

最初の事例が国立大学となっているのは驚きです。国立大学はある一定の学力がなければ入学できないのはその通りです。ひょっとしたら、教授の板書に問題があり、その文字が見えにくかったのだとしたらほっとするのですが・・・この様な荒唐した学力状況から鑑みて、少数の稀な事例ではなく、大学の教育現場で大なり小なりこの様な現象が起こっていても不思議ではないでしょう。基礎学力の定着が未熟な大学生に専門的な分野の学力や知識が身に付くのでしょうか？大学数と募集定員にも大きな問題があります。新興大学の開設や新たな学部学科の増設にも問題があるでしょう。1970年代までの大学入試は、大学数や募集定員に対して受験者の数の方が多く、必然的に受験に落ちる生徒がいたのは事実です。受験勉強に取り組むことによって、当然、学力と知識が両輪で備わっていたんだと思います。現在の受験の様に、推薦入試やAO入試の対応があった訳ではないので、学生個々の力は現在の大学生より平均しても高いと言えると思います。

さて、皆さんのようにアメリカやカナダの大学に進学した大学生はどうなのでしょう。英語という言語をツールとして、専門分野の知識を身に付けるのです。ご存知の様に英語を母国語としない留学生はTOEFL (iBT) で61点以上)のスコアを獲得しないとアメリカ・カナダの学生と机を並べて講義を受けることが出来ないのです。併せて、異国の地での文化や慣習に対して食欲に学びながらの生活ですから、人間的な成長も期待できます。日本のこと（歴史・政治・文化・環境等など）も知識として習得しておかなければ、日本人として外国で学ぶことは出来ないのです。（次ページに続く）

皆さんは凄いい環境の中で学ぶ心の枠を広げながら、日々奮闘努力して行くのです。そして、自ずと基礎知識や学力、専門的な知識や見識を身に付け、何よりもアメリカ・カナダの学生と対等に渡り合えるディスカッション力を自然と身に付けて行きます。結果的には、問題や課題の解決能力の向上にと結びついて行くことでしょう。留学生としての誇りを持ち、日々努力し、毎日を精一杯やり抜くことの積み重ねが価値のある大学生活と成り得ます。

『非凡なる人は非凡なることをする人にあらずして、平凡なることを非凡なる努力でする人なり』・・・平凡なことをコツコツと精一杯考えて、実行することで非凡な力が備わります。皆さんが選択した進路に大いなる自信を持ち、今年も邁進して下さい。『名ばかりだけの大学生になる筈がありませんね？ 絶対に・・・。』

## 過去最少の新成人数となった今年の成人式

成人式を迎えられた JAAC 生の皆さん、ご成人おめでとうございます。心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

総務省の発表によると、今年の新成人数は 124 万人で過去最少となりました。昨年と比較すると 3 万人も下回り、4 年連続で過去最少を更新したことになります。また、総務省が実施する人口推計調査が始まった 1968 年以降で最も新成人の数が多かった年は 1970 年で、新成人数は 246 万人でした。その年と比べると、今年の新成人数はその約半数となってしまいました。その数は日本の総人口の 0.97% と言われ、総人口の 1% に満たないのです。

晴れて成年となられた皆さんは、これから社会の成員としての責任と義務を果たしていくという大きな使命を担う人材です。誰もが知っての通り、日本は確実に高齢者社会へ移行していきます。若い世代の人たちは経済的にも社会的にも様々な点において、現在の日本を築いてきた先人たちである高齢者世代の人たちを、支えていかななくてはならないという大きな義務と責任を負うこととなります。当然のことながら、そのためには日本という国が今後さらに発展し続けなければなりません。近年の世界情勢は経済の低迷や複雑な利害関係の上に成り立つ国家間の外交問題など、多くの課題を抱えています。このような世の中だからこそ、皆さんのように海外で大学時代を過ごした人たちの経験が求められ、そして、それらが活かされる時代が来るはずで、これから、大学の卒業を前に就職活動においても大変な時期を迎えると思いますが、どうか皆さんの若い力を結集してより良い国づくり、社会づくりのために貢献していただくことを願っております。(照井)

【編集後記】▼早いもので新年の幕開けからもう半月が過ぎた。このわずか 2 週間の間に日本の不安定な政局運営しかり、世界のどこかで災害や戦闘、内戦の危機などが起きている。この調子じゃ今年も世界の動きから目を放せそうもないな●それにしても、今年の新成人数は過去最少だという。わかっていることだとは言え、改めてその数字を見ると不安な気持ちになるのは私だけだろうか。新成人たちよ、頼んだぞっ、この日本の将来をッ！◆またインフルエンザが流行し始めている。海外にいる JAAC 生の皆さんはくれぐれも体調を崩さないように▲就職内定率は去年の 10 月現在で 57.6% と過去最低となった。大企業だけが会社ではないぞ。自分に合った会社は以外に身近なところにあるものです。(照井)

Let me remind you<sup>.....</sup>

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

◆JAAC 生の皆さんへ： 今年も新学期が始まりました。履修科目の Drop and Add (教科履修の変更) の期間を再確認して、無理のない履修に努めてください。特に、今学期終了後に卒業する人や、今年中に編入を予定している人は、くれぐれも必要な単位を落とすことのないように心がけてください。

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)

謹んで新春の祝詞を申し上げます

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をこころからお祈り申し上げます

JAAC 日米学術センター

代表 高瀬 永俊

スタッフ一同

